

# 南部再生ブログ ついに登場!

<http://hanshin-now.com/amaken>



尼崎南部を全国へ知らしめるべく立ち上がった「阪神間エリア情報サイト～hanshin NOW! (阪神ナウ)～」の元談です…。しかし、あまけんのブログ『尼崎と書いて「アマ」と読め!』や、尼崎の特派員がおすすめるお店なんかも載っているの、尼崎のディープな情報を検索するのならこのサイトしかありません! しかも、ブログを使って、自らおすすめるお店などを投稿することができますよ。求ム! アマの口コミ情報! ■阪神ナウ編集長・西岡香里 (阪神電気鉄道株式会社)

## 南部再生

尼崎南地区活性化のための地域情報誌

vol.19

発行日 (季刊発行)  
2005年9月20日 (年4回)  
配布  
6,000部  
編集  
若狭健作・網本武雄・松本創  
加藤正文・田中正郎  
カバーイラスト  
コマツサトミ

印刷所  
(株)フジグラフィックス  
発行所  
尼崎南部再生研究室  
〒660-0825 尼崎市南城内1-106  
<http://www.amaken.jp/nambu/>  
電話 06-6488-6220

### 尼崎南部再生研究室って?

尼崎大気汚染公害訴訟の和解金を活用して2001年3月に設立。尼崎南部を何とかしようと楽しむ人たちが集まりました。学者、大学生、会社員、地元企業… 会員数は現在250人。通称 **あまけん**。

### 定期購読のご案内

「毎月確実に読みたい」「アマのためにヒトハダ脱ぎたい」—そんな方々のために定期購読と会員制度のご案内です。年4回「南部再生」をお届けする一般会員は年会費一口1,000円、その他発行物の進呈も特典に加わるゴールド会員は年会費一口10,000円です。

### 配布協力

尼崎信用金庫市内支店・郵便局市内各局  
阪神電鉄市内各駅・中央・北園図書館・地域研究史料館・公民館各所・テレビエ・ハーティ21・尼崎商工会議所・中小企業センター・総合文化センター・NPOシンフォニー・尼セン・TMO尼崎・三和本通商店街Miステーション・三和書房・モンセ分店薬局・ユニチカ記念館・三栄薬局・ヒノテ阿免本舗・築地戎湯・スーパーえとう・そば処竹生・gladberry・CURIO・CHATHOUSE  
その他協力店を募集しています。



したうえでの反対である。その活動に、下北沢を愛する多くのミュージシャンらが賛同し、ライブなど反対イベントを行っている。こちらはギター片手の熱いパフォーマンスだ。

この道路計画に事業認可がおりるかどうかは、今年中に決着がつかない。Save the 下北沢」による、あえて道路をつくらないまちづくりが行政に受

齊藤成人 さいとつなるひと  
日本政策投資銀行 調査役

け入れられるかどうかはわからない。確実に言えるのは、道路をつくってしまえば、下北沢の持っていたブランド価値は破壊されるということ、そして、他の街と同じように開発された下北沢を好きな人はあまりいなさそうだと、ということだ。

# ついでにアイマツツツツ

新たに施設などを作らずに、地域にある資源を上手く活用したまちづくり事例を紹介。 第9回 Save the 下北沢



曾我部憲一(元サニーデイサービス)、岸田繁(くるり)。このミュージシャンらの共通点は何でしょうか。答えは「Save the 下北沢」という活動に賛同していること。東京都世田谷区下北沢を寸断しようとしている道路計画に対して展開する熱い反対運動にせまった。

# 冷静な計画分析とギター片手に熱く「ハンタリー」と歌う

下北沢。「シモキタ」と言っただろうがとおりが良いかもしれない。街自体は完全に都市開発から取り残されており、「行政的に言えば」決してきれいな街並みではない。ところが、東京都内においては住みたい街ランキングで常にトップクラスだ。

その魅力は、鉄道駅を中心とした半径200m以内の狭い路地に、昔ながらの商店街からこじやれた雑貨屋や古着屋、そしてライブハウスや小劇場まで、数百の低層小規模店舗がごった煮状態でひしめき合っていることにつきる。いわば街自体が巨大なバザールであり、用がなくても簡単に何時間でも時間をつぶせる。筆者も「チートの場所困ったら、シモキタでも行っておけ」とい

ありがたい格言を頂戴したことがある。とにかく下北沢はごちゃごちゃしていることが最大の魅力で、それ故多くの人が集まってくる。そこに集まる人々が下北沢発の多彩な情報発信をすることが街のブランド化に寄与している、と考える。そんな街が、今、全国のまちづくり関係者の注目を集めている。街を分断する格好で幅26メートルもの巨大な道路をつくる計画が持ち上がっているためだ。

発表された計画では、駅前には大きなロタリーをつくり、今ある商店街を大きく分断する幹線道路を通す。歩行者の街として知られる下北沢に、あえて自動車交通を取り入れようとする意図は不明だ。おそらく人気があるエリアだから開発したい、ということだろう。開発しなかったからこそその下北沢人気であるのだが、発想の順序が逆転してしまっている。

これに対して、地元住民が中心となって「Save the 下北沢」という反対運動を展開。何でも反対、反対とだけ言っている従来型の運動ではない。「道路計画に反対だが、道路をつくる効果を満足させるためにはこのような代替案が考えられるのではないか」ということを真摯に検討し、対案をホームページ上で公開している。詳しくはホームページをみていただきたいが、費用便益効果分析から周辺エリアの交通量調査など、実にマメに、そして冷静に今回の計画についての分析を



「Save the 下北沢ホームページ」  
対案の詳細が掲載されています。Web上での反対署名が可能です。  
<http://www.stsk.net>  
下北沢タウン誌『Misatikoh(ミスアティコ)』ホームページ  
下北沢のフリーペーパーです。今回の計画、反対運動についても詳しく載っています。  
<http://www.misatikoh.net>